

で、国民は完全にマインドコントロールされている状態だ。「教育には人間を飼いならず教育と、人間を解放する教育がある」というが、北朝

前向き
断固ソッポ向き

——庶民
(防府・与太郎)

発言席

有明海の空前のノリ不作は、ムツゴロウのギロチンと呼ばれた諫早湾閉め切りと干拓工事のせいではないか。そう問題になって、もうすぐ2年がたつ。現

地以外で関心が薄れる中、この14日に衆議院を重要な法案が通過した。「有明海及び八代海再生特別措置法案」である。

農水省が設置した第三者委員会は昨年、有明海の異変に干拓の影響はあると指摘した。諫早湾を閉め切る潮受け堤防の開門調査も提言した。ところが、国は短期の開門調査を行ったものの結果をまだ明らかにせず、中長期開門についても検討中と言いつつ、並行して干拓工事を行っている。矛盾した態度をとり続けているのだ。

の国庫補助率をかき上げしているのが特徴。下水道や浄化槽整備の充実、排水中の汚濁物質の総量規制なども盛り込まれている。今年度約20億円の財政措置がとられる予定だ。

従来通り、公共工事に依存する手法だが、有明海の危機を救うためには一見、良さそうだ。だがこの法案に、有明海の環境や生態に詳しい研究者らが「これではまたも、環境を破壊する恐れがある」と異議を唱えている。

例えば、漁場に砂をまいてアサリなどに適した環境を作ろうとする覆砂。有明海でもここ数年盛んで、今年度も沿岸4県で207ヶ所を対象に40億円が費やされる見込み。特措法施行で、さらに充実させる計画だ。しかし、長崎大学水産学部の玉置昭夫教授は、長期的にはむしろ有害だと言う。玉置教授は、有明海や周辺海域の砂質干潟で、20年以上も底生生物の研究を続けている。



有明海破壊を促す特措法案

科学ジャーナリスト・松永和紀

*みんなの広場

いと表明したそう。大いに高校生の喫煙が、もはや何見える。男子の喫煙率が50%に結構である。特にたばこの問題にもされない段階にきを切ったというが、この中に

「有明海の中央部などで採砂してアサリ養殖場にまくので、採砂地の環境がダメージを受けると、砂をまいた当座は効果があるかもしれないが、しばらくすると、粒の粗い砂の間に泥や有機物がたまる。その結果、酸素が不足したり硫化水素が発生しやすくなって、生物にかえって害を及ぼす。覆砂は、形を変えた干潟埋め立てです」

覆砂の効果については、衆院農水委員会では参考人として発言した学識経験者も、「もとのもくあみになる」と発言。漁民も「役に立たない」と述べた。にもかかわらず、大島理森農水相はその後も委員会で、特措法により強化する具体策として説明し続けた。

特措法では、有害動植物の駆除を行う。主な対象はアサリを食べるトビエイ類で、捕獲した漁民に金が渡る仕組みだ。だが、トビエイ類の生態はほとんど分かっていない。生態学者は、有明海でトビエイ類を無秩序に駆除し続けられ、絶滅の可能性すらあると指摘する。

ほかにも、特措法案の具体策には、研究者、漁民から数々の疑問がある。大規模干拓に反対しているNGOの諫早干潟緊急救済東京事務所は「異変の元凶と疑われている干拓工事を進めておきながら、ほかの対策をとるのはおかしい。しかも、計画されているのは従来型ばらまき事業ばかりだ」と指摘する。

税金を使う覆砂などで、環境破壊を招いてよいのだろうか。一時的に漁民や業者が潤い、その後には大きなダメージが残る構図は、諫早湾干拓事業と全く同根ではないか。

漁民の中には「特措法は、干拓の続行を漁民にのませるための懐柔策だ」との見方すらある。

干拓という公共工事の誤りを、さらなる有害な公共工事であるトビエイ類で、捕獲した漁民に金が渡る仕組みだ。だが、トビエイ類の生態はほとんど分かっていない。衆院では残念ながら、審議は極めておきなりだった。舞台は19日から参院農水委員会に移る。真摯な論議を期待する。

(毎週日曜日に掲載)

台湾で知った ジャパン
主婦 藤内八重子65(福岡県宗
た い 行 の っ っ ぶ 人 っ は
その際、「一」と呼ばれるのの「きたのです」から、水準の量の焼き物をた。「では、は何を意味しうか」と問わえることがで「ジャパン」の意味です」が日本を代表昔は漆器産業ことを外国人ずかしく思っジャパンとが漆とか漆器いうことを知日本人のうちうかと思ったのは、私たかも」と思っ